

Rohm Music Friends[♯]

ローム ミュージック フレンズ

2018.11 | No.7

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—



ヨハネス・フェルメール「ヴァージナルの前に立つ若い婦人」1670年-1672年頃
A Young Woman standing at a Virginal. 1670-1672.
© The National Gallery, London - distributed by AMF/amanaimages

Rohm Music Friends

No.7
2018.11

ローム ミュージック ファンデーションは
音楽を通して
豊かな文化をつくることを
目指しています。

目次

- P03 活躍する奨学生 インタビュー
- P07 ローム ミュージック フェスティバル2018
- P13 2018年度 奨学生のご紹介
- P15 2017年度奨学生 報告会
2018年度奨学生 認定式
- P16 ローム ミュージック ファンデーション
スカラシップ コンサートVol.16~19
- P19 京都・国際音楽学生フェスティバル2018
- P21 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI
- P23 ローム クラシック スペシャル
日本フィル コパケン・ワールド Vol.19
日本フィル エデュケーション・プログラム
小学生からのクラシック・コンサート2018
日本フィル 夏休みコンサート2018
- P25 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室
- P26 ローム ミュージック フレンズからのお便り
- P31 ローム ミュージック ファンデーション ブログ
奨学生レポートより
- P33 ロームシアター京都
- P37 奨学生一覧

「ローム ミュージック フレンズ」とは 1991年の創立時以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業で関わった音楽家。
2018年11月現在 計4,400人
※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

奨学生	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。	464人
音楽在外研究生	音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。	64人
音楽セミナー受講生	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。	298人
京都・国際音楽学生 フェスティバル出演者	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から 音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。	2,525人
小澤征爾音楽塾 塾生	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。	1,277人



活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.7

Kenji Sakai

酒井 健治 [作曲]

京都・国際音楽学生フェスティバル
1999出演者

2002、2005～2007年度奨学生
給付時の在籍学校：パリ国立高等音楽院、
ジュネーヴ音楽院

取材・文：朝岡 聡



©Maxime Lenik

Profile

大阪生まれ。京都市立芸術大学卒業後渡仏。フランス国立パリ高等音楽院作曲家、ジュネーヴ音楽院作曲家を最優秀の成績で卒業。フランス国立音楽院研究所にて電子音楽を学ぶ。これまで、2015年にローマ・フランス・アカデミーのフェロー（ローマ賞）に選ばれたのはじめ、エリザベート王妃国際音楽コンクール作曲部門グランプリ（2012）、文化庁長官表彰（国際芸術部門）（2012）、芥川作曲賞（2013）、武満徹作曲賞第1位（2009）他、国内外の主要な作曲賞を次々と受賞。2017年4月、名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンスに就任。



これまでのローム ミュージック ファンデーションの奨学生は2018年4月現在（インタビュー時）464人。そのなかに作曲部門の方々が19人います。その1人、酒井健治さんは、2012年のエリザベート王妃国際コンクールでグランプリに輝いて世界に羽ばたき、国内外で今最も注目を集める気鋭の作曲家の1人。2018年4月開催のローム ミュージック フェスティバル2018で、学生時代の自作を編曲しての初演が好評だった酒井さんに、「これまで」と「これから」をうかがいました。

—ロームミュージックフェスティバル2018のプログラムで演奏された「日本民謡によるパラフレーズ」は、作曲家・酒井健治としては忘れられない曲の1つですね。

そう、私のいわゆるオーパス・ワン（作品1）です。京都市立芸術大学4年生だった1999年、京都・国際音楽学生フェスティバルに参加して、チェロとピアノの演奏で日本民謡を使うという条件で書いたんですが、自分にとって外に向かって発表した最初の作品だったのです。それをこの度オーケストラ版で演奏したいという依頼を受けました。20年前と今では音楽に対する考え方も変化しましたから、当時の自分の若さを感じて躊躇したり少々恥ずかしかったりしたのですが、信頼する下野竜也さんと京都市交響楽団が演奏してくださいとうかがい、オーケストラ版編曲をお引き受けした次第です。その編曲のプロセスは、痛いような嬉しいような、なんだか20年前のアルバムを眺めながら進めるようでした。

—実際に聴いたら、日本の美しい田園風景がオーケストラのさまざまな音でフワッと浮かび上がるようなイメージで素敵でしたよ。そもそも音楽への道はどんなところからですか？

6歳のころからピアノを習い始めて、そのすぐ後に作曲を始めた…そんな感じです。

—えっ？小学校のころから作曲していたんですか！？



©佐々木卓男

ピアノを習い始めたときに「カエルの歌」を弾いてみたんです。最初の部分は、ドレミファミレド…ですよ。それでそのまま指1つ音をずらして、平行移動でレミファソファミレド…とやってもうまくいらない。でも、ファをシャープにするときれいに移調できる。つまり、あるものに上手く操作を加えると別のものに発展するっていう事実が子供心にも凄く面白かったんですよ。モチーフを展開させて大きなものをつくりたい！という思いですね。

それからは、遊びというか独学で作曲していました。小学生のころに聴いていた、すぎやまこういちさんの「ドラゴンクエスト」の音楽も印象深かったですね。そしてポップスがやりたくて、そのためには理論を知っていた方が良さだろうと思って京都市立芸術大学に入学したら、目覚めちゃった（笑）。音楽を深く勉強すればするほど、その先に行ってみたくなりました。新しい、誰も聴いたことがないような音楽にチャレンジしたいと思ったのです。

—ローム ミュージック ファンデーションの奨学生として学ばれたのはパリとジュネーヴですよ？

留学するならフランスと最初から決めていました。高校時代から習っていた先生がフランスで学ばれた方でしたし、私自身フランス音楽が好きでしたから。

パリ国立高等音楽院で4年間学び、そのマスタークラスで出会った先生にどうしても教えてもらいたくて卒業後にジュネーヴ音楽院に行きました。パリでは作曲を始める前のコンセプトを勉強し、

ジュネーヴではそれをどうやって発展させるかという手段を身につけたかったです。ジュネーヴの後、さらにフランスの国立音響音楽研究所(IRCAM)で研究員をしました。そこでは音響学や電子音楽をきちんと理論的に勉強する機会を得ました。

「音楽に打ち込める環境」を整えていただけたのは、つくづく大事なことだと思います。ほかのことをしながら音楽を勉強するのではなく、24時間好きなだけ音楽に没頭して集中して学ぶ。これをサポートしてくれたのがローム ミュージックファンデーションです。西洋音楽は外国から日本に入ってきましたが、音楽や演奏自体は持ってこられても「音楽が生まれる土壌」みたいなものは持ってこられなかった。欧米に比べて日本はそこがまだまだ厳しい。王侯貴族の時代なら音楽家は受け身で、雇われて環境を整えられた場で活動しましたよね。でも現代では、音楽家はより能動的に自分で社会に関わっていかないと学んだり表現したりできないのです。それができたのは本当にありがたいことでした。

留学時代に一緒に学んだ友人とは仲間であると同時に強力なライバルでもありました。私の在籍していた当時の同期はたまたまだけど特に有能な人間が集中していたみたいで、現在も皆活躍していますよ。皆さん立派に生き残っています。(笑)

—フランスで勉強していて印象に残ったのはどんなことですか？

IRCAMで勉強した内容は、日本ではまだ全く知らなかったジャンルで、これをフランスで学べたのは大きかったですね。あとは伝統を肌で感じる

ことでしょうか。世界一古い歴史を持つパリ国立高等音楽院では、その伝統を吸収した音楽家が先生になって学生を教えていくんです。まさに伝統のなかで伝統を吸収していく…そういったことに対してのリスペクトを実感しました。やはり現地に行って、パリの空気や伝統を肌で感じるのがあるかないかでは全然違うんですね。パリは現代美術や現代音楽も盛んなのですが、同時にコンサバティブ(保守的)なところがあって、伝統というか、自分が信じていてこれでよしと思っていることはなかなか曲げない。一見わがままのように感じても芯を持っているから信頼できて、ウマが合えば本当に長く付き合える人間が多いです。

—自分のスタンダードが確立しているってことでしょうかね。そういえばパリの人は、朝食パンを買う店にもこだわりがあるって聞きますよ。

そうですね。パン屋、チーズ屋、お菓子屋の3つはフランス人にとって外せない重要な店で、パリではそれぞれがお気に入りの店を持っていて、そこでしか買わない(笑)。

—ところで酒井さんは国内外の作曲賞受賞やコンクールで優秀なる成績も収めていらっしゃいますが、作曲の評価や優劣の判断基準は、演奏と比較してどんな点が違うのですか？

審査員の好みが反映されるという現実も少しはあるでしょうね。しかし、演奏と同じで基本的な部分をきっちり審査するというのは変わりません。作品を書くにあたっての基礎的なテクニックで

すね。それは1つだけでなく多々あるわけです。そういったテクニックの比較や、作曲家はこれをやりたいんだ!という統一的視点という概念がどこまで徹底されているか。ここが大事だと思います。そのテクニックを身につけたくて、私自身も留学したわけです。作曲作品とは建築と全く同じで、基礎からブロックを積み重ねて、ひとつの大きな建物をつくりあげる。そんな作業ですね。

—ロームシアター京都に響いた「日本民謡によるパラフレーズ」を聴くとオーケストラの響きに、酒井さんのフランスで培った要素が全部の音からにじみ出ている気がしましたよ。

この曲を作曲した1999年当時が「フランスに行ったら勉強したい」という憧れの真っただなかなでしたが、今回のオーケストラ版もまさにフランスの近代音楽です。ドビュッシーやラヴェルの作品からも着想していますし、和声もフランスものですから。

—そんな酒井さんのこれからは？

そうですね、2012年のエリザベート王妃国際音楽コンクール作曲部門グランプリを獲得してから、私の作曲家としてのキャリアがかなり変わりました。あれ以降、著名なオーケストラから作品のリクエストをちょうだいするようになって、活動の幅が一気に広がっています。それをいっそう充実させていきたいですね。2018年4月からは母校である京都市立芸術大学で作曲の教鞭を執っています。「日本民謡によるパラフレーズ」を作曲したころ、私は大学4年生だったわけですが、今度は私が若い世代を育てる側に立っています。これも非常に大事ですね。作曲の仕事ではオーケストラのような大きな作品や、機会があればオペラのような大きなプロジェクトに携わりながら、教えることも同時にやる。これを両方やることで精神的に健康でいられる気がします。

作曲オンリーでない活動が、私が私であるために必要なのではないかと考えています。



©佐々木卓男

INTERVIEWER
朝岡 聡
Satoshi Asaoka
テレビ朝日アナウンサーとして活躍。フリーになってからはクラシックコンサートの司会や企画構成にも活動のフィールドを広げ、芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。

□ 今後の演奏会予定

- 名古屋フィルハーモニー交響楽団 第464回定期演奏会
酒井健治: ピアノ協奏曲[委嘱新作・世界初演]
ジョン・アクセルロッド(指揮)
萩原麻未(ピアノ)
- 2019年1月18日(金) 18:45
2019年1月19日(土) 16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール



ローム ミュージック フェスティバル 2018にて「日本民謡によるパラフレーズ～オーケストラのための～」演奏時と、客席から挨拶する酒井健治さん。

©佐々木卓男

国内外で活躍するローム ミュージック フレンズなど豪華出演者による音楽祭!

ROHM MUSIC FESTIVAL

ローム ミュージック フェスティバル 2018

2018.4/21 [土]・4/22 [日] ロームシアター京都
[メインホール/サウスホール/ローム・スクエア]

2018年4月、ロームシアター京都で音楽の祭典「ローム ミュージック フェスティバル2018」を開催しました。このフェスティバルは、ロームシアター京都がオープンした2016年に始まり、今年で3回目となります。メインホールとサウスホールではこれまでの支援事業に関わり、現在国内外で活躍する「ローム ミュージック フレンズ」34人を中心とした豪華メンバーによる6公演を、ローム・スクエアでは野外特設ステージを設置し、関西の中高生による無料のコンサートを開催しました。ロームシアター京都全体が音楽であふれ、多くのお客様にご来場いただいたこのフェスティバルをナビゲーターの朝岡聡さんのレポートと写真で振り返ってみましょう。



ナビゲーター 朝岡 聡

京都の新緑が鮮やかさを増し、琵琶湖疏水の流れも麗しい4月21日と22日に開催されたローム ミュージック フェスティバル2018。3回目となる今回も国内と世界に羽ばたいているローム ミュージック フレンズの演奏を中心に多彩な「音楽の遊び」の場となりました。

リレーコンサートA

成田達輝×萩原麻未 デュオ・コンサート

4/21 13:00～ <サウスホール>



ともにパリ国立高等音楽院に学び、ここ数年共演が大好評のヴァイオリン成田達輝とピアノ萩原麻未のデュオ・コンサートにはフランスの洒落さが濃厚に漂っていて秀逸。ラヴェルやドビュッシーのソナタでは、この2人ならではの世界に酔いました。

成田達輝 (ヴァイオリン)、萩原麻未 (ピアノ)



成田 達輝 [ヴァイオリン]
(2010～2012年度奨学生)

今回の演奏会を通しての学びと、京都に滞在している期間中に得たいろいろな音楽的アイデアは、私にとって本当に貴重で掛け替えのないものです。またの機会に皆様にお目にかかることを楽しみにしています。



萩原 麻未 [ピアノ]
(2011～2013年度奨学生)

京都で、そしてローム ミュージック ファンデーションの公演で演奏することはやはり特別な想いがあります。心置きなく留学生活を送ることができ、どのように恩返しができるかをいつも考えておりますが、どんなことであっても援助していただいた大ききには足りません。いただいたご縁によるさまざまな素晴らしい音楽家の方たちとの出会いも本当に嬉しい限りです。

リレーコンサートB ザ・スピリッツ・オブ・ブラス

4/21 16:00～ <サウスホール>

NHK交響楽団首席トランペット奏者の菊本和昭がトークも務めた「ザ・スピリッツ・オブ・ブラス」では、金管楽器合奏の面白さを改めて実感。小澤征爾音楽塾で学んだメンバーを中心にバロックやポップスを縦横無尽に演奏し、特に打楽器の黒田英実が「剣の舞」で、なんと5つの楽器を同時演奏!この変幻自在がりにには客席からやんやの喝采でした。



菊本和昭、伊藤駿、杉木淳一郎、新穂優子、黒田英実(トランペット)、日橋辰朗(ホルン)、木田涼平、風早宏隆、古賀光、辻姫子(トロンボーン)、藤井良太(バス・トロンボーン)、宮西純(チューバ)、黒田英実(打楽器)



菊本 和昭 [トランペット]
(2008年度奨学生)

クラシック音楽愛好家の方々でも、金管アンサンブルに興味をお持ちの方はそんなに多くないかもしれませんが、当日は客席いっぱいのお客様に足をお運びいただき大変感謝しています。今回集まったメンバーは、国内外を問わず、これからのクラシック音楽界の10～20年を支えていく旬のオーケストラ・プレイヤーです。最高のメンバーと作り上げたあの瞬間、大事に忘れないようにしたいです。



風早 宏隆 [トロンボーン]
(2003年小澤征爾音楽塾 塾生)

素晴らしい演奏家の方々とは過ごし、ともに演奏をした特別な数日間でした。過去に小澤征爾音楽塾に参加し、そのときの思い出を今回の出演者と話しましたが、この度の演奏会もまたこれから語り合う大切な思い出となりました。今後この素晴らしいプロジェクトがますます発展し、続いていくことを祈念しています。



辻 姫子 [トロンボーン]
(京都・国際音楽学生フェスティバル2012出演者)

大学入学時より関西で長らく演奏活動をしましたが、ちょうどロームシアター京都が完成するころには関東へ引越してしまい残念に思っておりましたので、今回このような機会をいただけて本当に幸せでした。またいつか京都で演奏できるよう、日々精進してまいりたいと思います。尊敬する共演者の皆様、そして聴いてくださったお客様に心より感謝いたします。



黒田 英実 [打楽器]
(2009年小澤征爾音楽塾 塾生)

常に真剣でありつつも雰囲気は温かく…演奏会が終わってしまうのがとても寂しかったです。素晴らしいメンバーの皆様とかけがえない時間を過ごすことができました。たくさんのお客様に温かい拍手をいただき、本当にありがとうございました。

リレーコンサートC 「愛憎交々」～メゾ・ソプラノの世界

4/22 13:00～ <サウスホール>

清水華澄・富岡明子・林美智子の3人が集まった「愛憎交々～メゾ・ソプラノの世界」は艶やかな恋歌や情感あふれる日本歌曲のまさにぜいたくな饗宴、その聴き比べに心陥うとり…。

清水華澄、富岡明子、林美智子(メゾ・ソプラノ) 越知晴子、東田輝子、河原忠之(ピアノ)



清水 華澄 [メゾ・ソプラノ]
(2006.10～2008.9音楽在外研究生、
2006、2007、2009年小澤征爾音楽塾 塾生)

メゾ・ソプラノ歌手が3人そろってのコンサートはとて珍しく、それぞれがタイプの違うメゾ・ソプラノで大切な仲間なので、合同でのリハーサルではワクワクが止まらず大興奮、演奏家にとって人前で演奏をすることは一番の勉強になります。留学を終えてもこのように勉強する機会を与え続けてくださることに心より御礼申し上げます。



富岡 明子 [メゾ・ソプラノ]
(2003、2005年小澤征爾音楽塾 塾生、
2006、2007年度奨学生)

会場やお客様の雰囲気も明るく軽やかで、私も心地良い緊張感のなか、とても楽しい本番でした。奨学生としての時間を終えた後も、こうして自分の学びを試す機会を与えていただけたこと、如何に長い時間をかけて私たち演奏家を育ててくださったのかを、改めて実感いたしました。



林 美智子 [メゾ・ソプラノ]
(2002.10～2005.9音楽在外研究生)

「ローム ミュージック フレンズ」の絆と尊さを実感できたとても素敵な感謝深い演奏会でした。確固たる信念を貫きながら「ローム」にしか出来ないフェスティバルを末永く続けて行って欲しいと心から感じました。私もローム ミュージック フレンズとして、変わらず日々努力精進してまいりたいと思います!



リレーコンサートD 朗読劇「兵士の物語」～彼の運命や如何に?

4/22 15:30～ <サウスホール>

俳優・西村まさ彦を朗読に招いた朗読劇「兵士の物語」では、語り芝居と7人のアンサンブルが見事に融合。ストーリーに沿って刻々と変化する場面と主人公の心の風景を鮮やかに描いて音楽物語の真骨頂でした。



玉井菜採(ヴァイオリン)、佐野央子(コントラバス)、亀井良信(クラリネット)、佐藤由起(ファゴット)、三澤慶(トランペット)、今込治(トロンボーン)、西久保友広(打楽器)、西村まさ彦(朗読)



玉井 菜採 [ヴァイオリン]
(1998、1999年度奨学生)

「兵士の物語」はアンサンブルが難しいところも多いのですが、皆さん素晴らしい方々なのでリハーサルも順調に進みました。演奏のアイデアも活発にできるようになり、本番は西村まさ彦さんの素晴らしい語りと相まって充実した演奏となったと思います。私が奨学金をいただいたのは約20年前です。今も所属する演奏団体のコンサートに何回かご助成いただき、長いスパンでの音楽界への支援に心から感謝しております。

オーケストラ コンサートI 「にっぽん」と「ジャポニズム」 ～我が故郷の調べ

4/21 19:00～ <メインホール>

下野電也(指揮)、木下美穂子(ソプラノ/蝶々夫人)、坂本朱(アルト/スズキ)、宮里直樹(テノール/ピンカートン)、大山大輔(バリトン/シャープレス)、酒井健治(作曲)、朝岡聡(ナビゲーター)、京都市交響楽団(管弦楽)(コンサートマスター:泉原隆志)

<オーケストラコンサートI>



そして…。今回もメインホールで行われた「オーケストラコンサート」は地元京都のシンボル京都市交響楽団を下野電也が指揮し、多彩なソリストと繰り広げるステージ。初日は日本をテーマに邦人作曲家の音楽とオペラ「蝶々夫人」が一夜で楽しみ、2日目はモーツァルトのピアノ協奏曲第20番とR・シュトラウスの交響詩「英雄の生涯」全曲の組み合わせです。オペラは特別な映像や衣装、演出つきで(これが美しいのなんの!)歌手陣はすべてオペラ最前線で活躍中の面々、ピアノのソリストは世界に羽ばたく注目の若手小林愛実とくれば、両日とも「超」が付く豪華プログラムにして中味の濃い演奏でした。



下野 電也 [指揮]
(1999年度奨学生)

留学から17年が経ち、このような素敵なフェスティバルに出演できたこと、とても感慨深いものがあります。ロームシアター京都のオープニングでフィデリオを指揮し、今回、蝶々夫人も指揮した私はとても幸せです。



木下 美穂子 [ソプラノ/蝶々夫人]
(2002年小澤征爾音楽塾 塾生、
2006年度奨学生)

私の大切にしているオペラ「蝶々夫人」で、マエストロ下野電也さん、京都市交響楽団の皆さんと一緒に出演できたこと、大変嬉しく思います。ハイライト版とは思えないほど完璧な舞台と衣装、演出、本当にぜいたくな公演でした。1回で終わるのは正直もったいないと密かに思っています。他の公演に出演されるアーティストの皆さんと、至る所で交流できるのも、このフェスティバルの特徴だと思います。



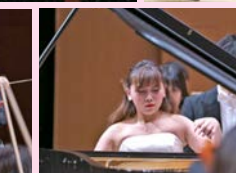
宮里 直樹 [テノール/ピンカートン]
(2015年度奨学生)

演奏と映像を合わせるという想像を遥かに超えた演出にとても驚きました。蝶々さんがピンカートンを持って月日が流れていく様を、満開だった桜の花びらが散って、四季の流れを表すとともに、蝶々さんの心の悲しさや寂しさを巧みに表している、とても感動的な演出でした。下野マエストロを筆頭に豪華なメンバーで、そのなかで歌えて本当に幸せでした。

オーケストラ コンサートII 天才と英雄の肖像 4/22 18:00～ <メインホール>

下野電也(指揮)、小林愛実(ピアノ)、朝岡聡(ナビゲーター)、京都市交響楽団(管弦楽)(コンサートマスター:泉原隆志)

<オーケストラコンサートII>



小林 愛実 [ピアノ]
(2011、2013年度奨学生)

初共演の京都市交響楽団の皆さん、そして10年以上ぶりの下野先生との共演、とても幸せな時間でした。このような素晴らしい機会をいただきましたこと、光栄に思っております。本当にありがとうございました!



泉原 隆志 [ヴァイオリン]
(2002年小澤征爾音楽塾 塾生、
2003年度奨学生)

今回は1つの大きな課題がありました。2日目に演奏したR・シュトラウスの英雄の生涯です。この曲のコンマスの長大なソロは、コンマスにとって大変重要なパートです。ロームシアター京都の響きに助けられ、大変気持ちよく演奏できました。来年のローム ミュージック フェスティバルではどのような演奏会が待っているのか、楽しみでなりません!

©佐々木卓男

<野外特設ステージ>

ローム・スクエアコンサート

ロームシアター京都の中庭にあるローム・スクエアから「ローム・スクエアコンサート」として毎日3回ずつ響いたのは京都・大阪の吹奏楽部の演奏でした。甲子園を沸かせた大阪桐蔭高校をはじめ、野外特設ステージに集まった中学生や高校生の「青春の音色」が集まった聴衆の心にさわやかに沁みわたります。どれも約30分の親しみやすいプログラムだけれどハイレベルな演奏ゆえの特別感がいっぱい。道行く家族連れやカップルが響きに誘われて来て、やがて聴き入ってしまう姿が印象的。素敵な音楽の力ですね。

4/21 ローム・スクエア

京都市立桂中学校 吹奏楽部 12:00～ 龍谷大学付属 平安高等学校吹奏楽部 15:00～ 大阪桐蔭高等学校 吹奏楽部 17:45～



4/22 ローム・スクエア

宇治市立宇治中学校 吹奏楽部 12:00～ 立命館高等学校 吹奏楽部 14:45～ 京都橘高等学校 吹奏楽部 17:15～



©大澤正

このフェスティバルを一言で表現するなら「豊穡」でしょう。コンサートや演奏者の数もさることながら、その音楽から感じる特別豊かな質感。それは参加したローム ミュージック フレンズがこれまでに学び、体験し、積み重ねてきたものが繋がって一つになる素晴らしさ。プロのアーティストとして国内外の第一線で活躍する彼らの演奏には、一人ひとりの音楽家としての確信とさらなる可能性が満ちているのです。ナビゲーターとして参加した私も、客席の熱い反応でそれを直に感じる事ができました。

創立から四半世紀を超えたローム ミュージック ファンデーションが育ててきたフレンズは、今まさに百花斉放。これまで同様これからも、花も実もあるアーティストが誕生し成長するはず。音楽を愛する人々にとって、それを実感できるのが何とも嬉しい春の京都でした。

文:朝岡 聡

ローム ミュージック フェスティバル懇親会

ローム ミュージック フェスティバル2018のために国内外から集まったローム ミュージック フレンズが一堂に会い、親睦を深めました。



©佐々木卓男



荒井 優利奈
ヴァイオリン

ウィーン国立音楽大学
2017, 2018年度



五十嵐 薫子
ピアノ

桐朋学園大学大学院
2018年度



上野 明子
ヴァイオリン

ケルン音楽大学大学院
2018年度



中嶋 俊晴
「カヴァー・テナール」

オランダ王立アムステルダム音楽院
2018年度



中村 太地
ヴァイオリン

ウィーン国立音楽大学
2018年度



野上 真梨子
ピアノ

ベルリン芸術大学大学院
2018年度



小川 恭子
ヴァイオリン

桐朋学園大学大学院
2017, 2018年度



小野田 有紗
ピアノ

英国王立音楽院大学院
2018年度



北川 千紗
ヴァイオリン

東京藝術大学
2017, 2018年度



樋口 一郎
ピアノ

桐朋学園大学
2018年度



久末 航
ピアノ

ベルリン芸術大学大学院
2018年度



榎本 瑠音
チェロ

パリ地方音楽院大学院
2018年度



城戸 かれん
ヴァイオリン

東京藝術大学大学院
2018年度



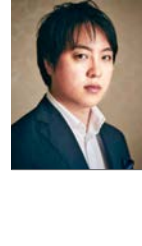
黒田 哲平
ピアノ

桐朋学園大学
2017, 2018年度



佐藤 采香
ワイフ・オラム

ベルリン芸術大学大学院
2018年度



深瀬 廉
バリトン

ベルリン芸術大学大学院
2016, 2018年度



藤原 秀章
チェロ

ベルリン芸術大学大学院
東京藝術大学大学院
2017, 2018年度



外村 理紗
ヴァイオリン

東京音楽大学付属高等学校
2018年度



佐藤 晴真
チェロ

ベルリン芸術大学
東京藝術大学
2017, 2018年度



篠原 悠那
ヴァイオリン

インターナショナル
メニューイン
ミュージックアカデミー
2018年度



高木 凜々子
ヴァイオリン

東京藝術大学
2018年度



水野 優也
チェロ

桐朋学園大学
リスト音楽院
2017, 2018年度



村田 圭代
「音楽学」

東京藝術大学
大学院
2017, 2018年度



森田 啓佑
チェロ

桐朋学園大学
2018年度



瀧本 実里
フルート

東京音楽大学
大学院
2018年度



竹山 愛
フルート

ミュンヘン音楽
演劇大学
2018年度



東田 範子
「音楽学」

東京藝術大学
大学院
2018年度



八木 瑛子
ラルート

ザルツブルク・
モーツァルテウム大学
2018年度



山田 唯雄
「クラシックギター」

ウィーン国立音楽大学
2018年度



吉江 美桜
ヴァイオリン

桐朋学園大学
2017, 2018年度

2017年度 奨学生 報告会 2018年度 奨学生 認定式

2018年8月ロームの本社にて、2017年度奨学生の報告会と2018年度奨学生の認定式を開催し、44名の奨学生が京都に集いました。公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションやローム株式会社の事業の紹介の後、ローム本社の工場見学を行い、奨学生より今後1年間の抱負や奨学金給付期間中の状況報告を発表していただきました。また、同時期でスカラシップ コンサートや、奨学生同士で交流を深めていただくための懇親会を開催しました。

[8/3 集合写真]



[8/27 集合写真]



- 2018.
- 8/3 報告会、認定式
- 8/4 スカラシップ コンサートVol.16
- 8/5 スカラシップ コンサートVol.17
- 8/26 スカラシップ コンサートVol.18
- スカラシップ コンサートVol.19
- 8/27 報告会、認定式



次世代を担う若き音楽家たちが奨学生期間の成果を披露!

ローム ミュージック ファンデーション

スカラシップ コンサートVol.16~19 ~RMF奨学生によるコンサート~

奨学金給付期間中または給付終了後1~2年の音楽学生が出演するコンサートです。音楽ファンの拡大と、若い音楽家への演奏機会の提供を目的に2013年より継続して開催しています。

2018年8月の3日間4公演に、2016、2017年度奨学生他 計26名が、さまざまな楽器のソロ演奏やトリオなど、フレッシュな演奏を披露し、約1,400人のお客様にお楽しみいただきました。



Vol. 16

京都府立府民ホール アルティ



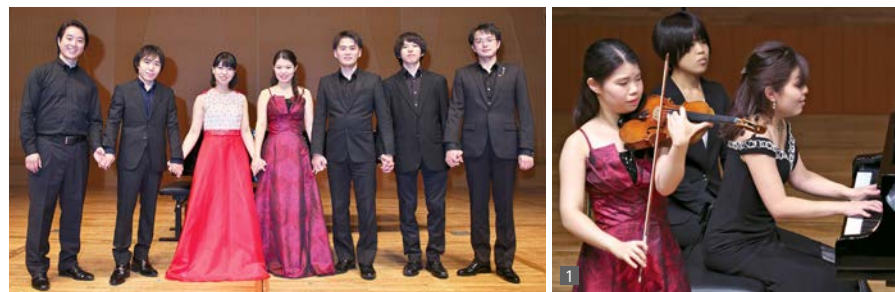
- 1 安田理沙[ヴァイオリン]
- 2 荒井優利奈[ヴァイオリン]
- 3 千葉水鳥[ヴァイオリン]、黒田哲平[ピアノ]
- 4 黒川侑[ヴァイオリン]
- 5 日高志野[ピアノ]
- 6 藤原秀章[チェロ]
- 7 吉澤淨[ソプラノ]

Vol. 17



1 加藤大樹[ピアノ] 2 杉田恵理[ヴァイオリン]、吉武優[ピアノ] 3 森山まひる[ヴァイオリン]、越知晴子[ピアノ] 4 黒田哲平[ピアノ]
5 梅村知世[ピアノ] 6 佐藤晴貴 [チェロ]、梅村知世[ピアノ] 7 林祐子[ソプラノ]、日高志野[ピアノ]

Vol. 18



1 北川千紗[ヴァイオリン]、石井楓子[ピアノ] 2 深瀬麻[バリトン] 3 黒岩航紀[ピアノ]
4 小林竜成[ヴァイオリン]、伊東裕[チェロ]、入江一雄[ピアノ]

Vol. 19



1 吉江美桜[ヴァイオリン]、五十嵐薫子[ピアノ] 2 水野優也[チェロ]



3 小川恭子[ヴァイオリン]、石井楓子[ピアノ] 4 岡本誠司[ヴァイオリン]、黒岩航紀[ピアノ] 5 石井楓子[ピアノ] 6 住谷美帆[サクソフォン]、黒岩航紀[ピアノ]



京都・国際音楽学生フェスティバル2018

世界の選ばれし若き音楽学生の演奏に感動の拍手!

京都・国際音楽学生フェスティバル2018



1993年より毎年、京都の春を彩る音楽イベントとして定着している「京都・国際音楽学生フェスティバル」。今回で26回目を迎えるこのフェスティバルは「音楽」を通じた国際交流と音楽家の育成を目的に、世界の代表的な音楽学校より選ばれた学生たちを京都に招き開催するものです。世界各国の学生たちが弦楽器、管楽器、ピアノ、歌などさまざまなジャンルでソロ、室内楽の演奏を行いました。また最終日のフィナーレは《音楽で巡る世界の国々》と題して参加各国の作曲家の作品をオーケストラで演奏を行い、幕を閉じました。連日満員のお客様からは学生たちに惜しみない拍手が送られ、それぞれ笑顔で帰国していきました。今年も地下鉄京都駅コトチカ広場でプレフェスティバルコンサートを開催し、こちらも多くのお客様にお楽しみいただきました。

2018.5/26~5/30 京都府立府民ホール アルティ



[参加学生のウェルカム・レセプション]



[プレフェスティバルコンサート 2018.5/12 地下鉄京都駅 コトチカ広場]



[フェアウェルパーティー]

海外9ヵ国9校23人、国内14校82人、合計105人

出演		参加者
国	学校名	
アメリカ	ジュリアード音楽院	4
オーストリア	ウィーン国立音楽大学	2
フランス	パリ国立高等音楽院	1
ドイツ	ベルリン芸術大学	2
ロシア	チャイコフスキー国立モスクワ音楽院	3
イタリア	ミラノ・ヴェルディ音楽院	3
ハンガリー	リスト音楽大学	3
フィンランド	シベリウス音楽院	3
英国	英国王立音楽院	2
日本	桐朋学園大学	3
	東京藝術大学	2
	国立音楽大学	2
	武蔵野音楽大学	2
	東京音楽大学	3
	大阪音楽大学	23
	京都市立芸術大学	21
	愛知県立芸術大学	3
	大阪芸術大学	9
	同志社女子大学	4
	相模大学	5
くらしき作陽大学	2	
洗足学園音楽大学	2	
エリザベト音楽大学	1	



お客様の声

- ・若い才能ある音楽家を目の当たりにしてワクワクしながら聴かせてもらいます。
- ・これから世界に羽ばたかんとする若い音楽学生が世界各地から選ばれて私たちに美しい音楽を聴かせてくれる、本当に幸せな5日間で感謝でいっぱいです。



各国参加学生の声

- ・さまざまな国際フェスティバルに参加させていただいたことがありますが、自信を持って言えるのは今回の京都・国際音楽学生フェスティバルほど最高のフェスティバルを体験したことがないということです。素晴らしくユニークな構成、世界中の音楽家を結びつける環境、音楽に浸る雰囲気、そのうえ周りにいる人々は皆親切で優しくかったです。(海外学生)
- ・全員が学生で、自分たちで主体的に進めるというコンセプトがあったからこそ、他の学生と深く関わることができ勉強になりました。海外へ留学しないとわからない海外学生の雰囲気などを知ることができ、今後を考えるきっかけになりました。(国内学生)



©佐々木卓男



小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI

小澤征爾音楽塾とは？

指揮者の小澤征爾さんをはじめとした一流の音楽家がオペラを通じて若手音楽家を育成することを目的に2000年からスタートした教育プロジェクト。恩師であるカラヤンの言葉「交響曲とオペラは、音楽という車の両輪のようなもの」を指針とする小澤さんは、その実践の場として小澤征爾音楽塾公演を開催しています。ロームは活動が始動した2000年より、その公演活動を継続的に支援しています。

プッチーニ：歌劇「ジャンニ・スキッキ」 ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」 ROHM CLASSIC SPECIAL

[各全1幕](原語上演/字幕付)

2018.3/16・3/18 ロームシアター京都
3/21 愛知県芸術劇場
3/25 東京文化会館



今回は2人の指揮者によって1時間弱のオペラ2演目が披露されました。ロームシアター京都で音楽塾の塾生たちは世界で活躍する音楽家の方々から指導を受け、オペラの制作が行われました。世界で活躍する歌手たちの素晴らしい歌とともに若い音楽家たちのオーケストラが支えるその演奏に、多くのお客様が酔いしました。

音楽監督：小澤征爾
指揮：ジョセフ・コラネリ (ジャンニ・スキッキ)
デリック・イノウエ (子どもと魔法)
演出：デイヴィッド・ニース
管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ
合唱：小澤征爾音楽塾合唱団
児童合唱：京都市少年合唱団
出演：ロベルト・ディ・カンティア、サラ・タッカー、エミリー・フォーンズ 他



子どものためのオペラ 歌劇「ジャンニ・スキッキ」 (原語上演/字幕付)

2018.3/13 ロームシアター京都

「子どものためのオペラ」は、「本物のオペラを体験してほしい」という小澤征爾さんの思いから生まれた、小学生を対象とするオペラ公演です。京都の小学生約3,000人を招待し、公演を鑑賞していただきました。はじめにオーケストラの各楽器が工夫を凝らした演出で登場し、空であったオーケストラピットが徐々に埋まっていきます。そして本番では、本公演のカバーキャスト(控え歌手)である塾生が出演し、歌劇「ジャンニ・スキッキ」が披露され、小学生たちはそのユーモア溢れる豪華なステージを楽しみました。



小澤征爾音楽塾 オーケストラメンバー、 カバーキャストによる ミニコンサート

2018.3/15・3/17
ロームシアター京都、京都市動物園、京都府立図書館 他

小澤征爾音楽塾のオペラの制作拠点としているロームシアター京都周辺で無料のミニコンサートが行われました。カバーキャストによるオペラの抜粋版や、オーケストラメンバーによる弦楽四重奏や金管五重奏など、若い音楽家たちが奏でる生の音楽を、さまざまなアンサンブルで楽しんでいただきました。



京都市動物園

京都府立図書館

ローム クラシック スペシャル

コバケン・ワールド Vol.19

2004年から「コバケン・ガラ」というタイトルで始まった、指揮者の小林研一郎さん自ら楽しく分かりやすくナビゲートし、指揮をするという人気のシリーズで、2012年からはタイトルを新たに「コバケン・ワールド」として7シーズン目を迎え、その人気ぶりにも拍車がかかっています。

ロームは、この「コバケン・ガラ」/「コバケン・ワールド」シリーズへの支援を第1回から継続的に14年間、今シーズンを含め計40回行っています。

今回は、小林研一郎さんが指名したピアニスト、仲道郁代さんによるモーツァルトのピアノ協奏曲第20番と、マーラーの交響曲第1番「巨人」をお届けし、サントリーホールのお客さまを興奮の渦に巻き込みました。



2018.6/24 サントリーホール



ローム クラシック スペシャル

日本フィル エデュケーション・プログラム

小学生からのクラシック・コンサート2018

「クラシック音楽は敷居が高い」「わかりにくい」というお子様や親御様のために、クラシック音楽を楽しむためのヒントを紹介するコンサートが、ロームシアター京都で開催されました。

日本フィルハーモニー交響楽団の管弦楽により奏でられるプロコフィエフ作曲の「ピーターと狼」に込められた音楽的なエッセンスや作曲家の想い、技法などを、指揮者とナビゲーターによる楽しい演劇を交えながら学んでいただき、多くのお客さまに喜んでいただきました。

2018.5/4 ロームシアター京都 サウスホール



ローム クラシック スペシャル

日本フィル 夏休みコンサート2018

日本フィルハーモニー交響楽団が、「生のオーケストラ音楽を、親子そろって楽しく、わかりやすく」「やわらかな感性を持つ子どもたちに音楽のもつ力の素晴らしさを届けたい」というコンセプトで44年にわたって行っているファミリーコンサートです。

次世代を担う子どもたちに生の音楽を身近に感じ、触れてもらう場として、これまでに120万人を超える動員数を誇るコンサートで、親子コンサートの先駆的存在でもあり、3世代にわたって親しまれています。ロームは、2016年から、関東以外で初となるロームシアター京都で開催されている公演を支援しています。今年は、第1部でオーケストラの名曲を、第2部でスターダンサーズ・バレエ団とともにチャイコフスキーのバレエ「くるみ割り人形」を、そして第3部では来場者の皆さんでオーケストラと歌えるプログラムで盛り上がりました。公演前には会場ロビーにて「ウェルカムコンサート」、公演後には「出演者と子どもたちの懇談会」も行われ、興味津々に聴き入り、質問する姿が見られました。

2018.7/25 ロームシアター京都 メインホール



平成30年度

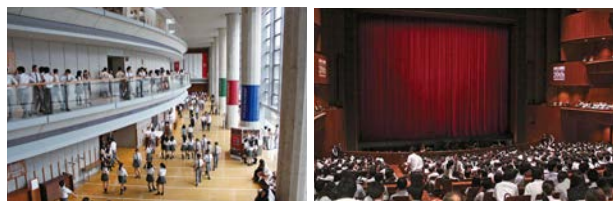
新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室「トスカ」

若い世代に、優れたオペラを鑑賞する機会を通して芸術文化の素晴らしさを伝えるため、新国立劇場にて1998年からスタートしたこの鑑賞教室。2008年からは関西でも開催し、2016年からはロームシアター京都で開催されています。

音楽文化の普及と発展には、優秀な音楽家の育成とともに音楽ファンの拡大も重要との考えから、ローム株式会社は1999年から、ローム ミュージック ファンデーションは2008年から毎年継続的に支援しています。

今年も東京で6日間・約10,000人の感性豊かな高校生が鑑賞し、大盛況のうちに幕を閉じました。

この鑑賞教室が、多くの高校生にとって、オペラに親しみそして楽しむきっかけになることを願っています。



2018.7/6・7/9~7/11・
7/13・7/14
新国立劇場 オペラパレス

Voice

鑑賞した高校生の声

- ・終始鳥肌が止まりませんでした。歌でこんなに心も動かされたのは初めてです。とても感動しました。今度は自分でチケットを買って鑑賞してみたいです。
- ・マイク無しであんなに美しい歌声を響かせることができるのは本当にすごいと思いました。あまりのすごさに圧倒され、時間の経過がとても早かったです。
- ・舞台が細部まで凝っていて、驚きました。衣装も美しく本当にその時代にタイムスリップしたようでした。
- ・特に興味をそそられたところは、舞台装置です。これを設計してデザインをした人に特に感謝です。このような裏の方々人知れず活動して下さることで表の出演者の方々が目立つことができる。表と裏、それぞれの使命を感じました。



写真提供:新国立劇場 ©寺司正彦

ローム ミュージック フレンズからの

お便り

The letter from rohm music friends

ローム ミュージック フレンズから届いたご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名【専攻】 援助年度
給付時の在籍学校



新しい環境での充実した日々

いまだ あつし
今田 篤 [ピアノ] 2011、2014年度奨学生
英国王立音楽大学

2年間のイギリスでの留学を終え2017年秋に入学したライブツィヒ音楽演劇大学での生活もあつという間に1年が経ちました。今まで以上にドイツ音楽に取り組み試行錯誤しながらも毎日音楽ができる喜びを噛みしめながら練習に励み、学業と並行して演奏活動やコンクールにも挑戦しています。2018年11月に行われる浜松国際ピアノコンクールへの出場も決定し、より音楽を深めていきたいと思えます。



上/6月に行われたアメリカでのコンクールにて
下/ワイマールで受講したフェレンツェ・ラドシュ氏
によるマスタークラス



ドレスデンでの新しい生活

ゆもと あみ
湯本 亜美 [ヴァイオリン] 2012、2013年度奨学生
ベルリンハンスアイスラー音楽大学大学院

2017年9月より、シュターツカペレドレスデンで、契約団員として在籍していましたが、その後オーディションに合格し2018年2月から同オーケストラ第2ヴァイオリン奏者の正団員として弾かせていただいています。歴史あるドイツのオーケストラで働ける喜びとともに、今日までドイツで勉強し続けることができたのも、ローム ミュージック ファンデーション奨学生としてご支援いただいたからだ感謝の気持ちでいっぱいです。今後もより一層精進してまいります。



上/本拠地Semperoperでのコンサート
下/ヨーロッパツアーにて



ヴィオラ・ダ・ガンバに魅せられて

さかい あつし
酒井 淳 [ヴィオラ・ダ・ガンバ] 2000、2001年度奨学生
パリ国立高等音楽院

ときが経つのを忘れ、朝から夜中まで何かに取り憑かれたかのように、ヴィオラ・ダ・ガンバを弾いていた留学時代。プロになってからは、そういう時間を確保することがまさに至難の業だったのですが、この度初心に戻り、ようやく腰を据えてクープラン作曲のヴィオール曲集をパリで録音しました。2018年7月、このCDが「レコード芸術」誌7月号新譜月評にて特選盤に選ばれました。



上/CDジャケット。APARTELレーベルからリリースしました(AP-166)。
下/2017年第15回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞時



音楽が出逢わせてくれるご縁

おかだ かな
岡田 奏 [ピアノ] 2010~2012年度奨学生
パリ国立高等音楽院大学院

15歳からのパリ国立高等音楽院での10年間の留学生生活を終え、今はヨーロッパと日本を拠点に演奏活動を行っています。いろいろな国の空気に触れ、文化や歴史を感じ、尊い仲間たちと議論を交わすことは何にも代えがたい喜びであり、音楽が出逢わせてくれるご縁には感謝しかありません。最近は演奏会で中国やチェコを訪れました。2018年秋にはサントリーホールデビューも控えているので、生きてきた道がどう音になるのか、日々奮闘中です。



上/チェコでのコンサートの後、可愛い天使からのお花
下/心のふるさと、ベルギーにて



©Kazashito Nakamura



フランス南西部、バラの街トゥールーズより

ふじえ ひとみ
藤江 扶紀 [ヴァイオリン] 2013、2014年度奨学生
パリ国立高等音楽院大学院

オーディションに合格し、2018年1月よりトゥールーズキャピトル国立管弦楽団のCo-Solisteとして弾いています。特殊なポストであり、1st2nd問わず、ヴァイオリンの1フルトの席全てに座る可能性を常に持っているため、勉強量も多く大変充実しています。愉快的な団員さんたちに囲まれ、楽しく、ぜいたくな経験を積んでいます。奨学生としてフランスへの留学を叶えられたからこそ現在の、感謝の気持ちでいっぱいです。



上/パリ公演(トゥガン・ソヒエフ指揮/ワディム・レービンVn.)
下/2018-19シーズンコンサート情報の冊子より



さまざまな活動での新たな発見に感謝する日々

たかはし のりえ
高橋 礼恵 [ピアノ] 2002、2003年度奨学生
ベルリン芸術大学大学院

数年の予定だったベルリンでの生活も気づけば18年目を迎えました。音楽においても人間的な意味でも大きな転機となった奨学生だった日々が今の私の土台となっています。留学時代に会った仲間たち、恩師の方々は今でもたくさんのお話を語り合い、演奏を聴き合い、刺激をもらう何よりの宝物です。近年は、ソロ、室内楽活動に加え、ピアノデュオでの活動も増えつつあり、これまでの3枚のCDはありがたいことに「FonoForum」誌(ドイツ)、「レコード芸術」誌で特選盤、読売新聞で推薦盤などとしてご紹介いただきました。2018年は「東京・春・音楽祭」でストラヴィンスキー・プログラムのリサイタル、ローマのドイツ歴史アカデミーにおけるペルト・アロイス・ツィンマーマン生誕100年の記念コンサートに出演するなど、さまざまな興味深いプロジェクトをいただきました。年明けには4枚目のCD録音が予定されています。また、指導の機会も増え、レッスンを通じて多くの新たな発見があり、自らも勉強させてもらっています。私なりに、音楽の面白さ、奥深さ、楽しさを、若い音楽家の方々とともに探求していけたらと考えています。



2018年「東京・春・音楽祭」にて



ドイツの音楽誌「Piano News」
2018年5/6月号に載ったインタビュー記事



国際的視野をもって地域に目を向けた活動

いまい ちかげ
今井 智景 [作曲] 2005~2008年度奨学生
アムステルダム音楽院

欧州での経験を活かして、地元の名古屋で現代音楽の裾野を広げるため、Seainx projectという団体を立ち上げ、コンサートの企画やアカデミーなどを開催しております。音楽・写真・映像・舞踏と多分野に渡って表現するプロジェクト「シネグドキズム2」は、2016年にあいちトリエンナーレやフランスでの公演を経て、2018年秋、中川運河助成ARToC10事業として名古屋で再演予定です。近年は、スペインのVERTICE SONORAアンサンブルからの委嘱作品がセガック現代美術館で取上げられた他、アンサンブルモデルンメディアのCDに拙作が収録、またリコーダーのために書いた作品「Crossboundary2 <waveform>」がイタリアのDiaphonia Edizionより出版されました。



フランスのHanatsu-miroirによる企画の今井智景ポートレートコンサート「MASQUE」



Seainx2017第1回名古屋国際現代音楽アカデミー「E.ロンバウト オーボエリサイタル」



私のお気に入り“Mai favorite”

すずき まい
鈴木 舞 [ヴァイオリン] 2015、2016年度奨学生
ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ミュンヘン音楽大学



©Yukiko Shioya

2017年秋に、デビューCD “Mai favorite”をリリースしました。スイス、ザルツブルク、ミュンヘンでの生活を通して学んだ表現や経験、音楽への想いを、幼少のころから大好きだったフランス音楽に込めました。2018年3月には、銘器の生まれ故郷クレモナで、グアルネリ・デルジェスのPrince Doriaをコンサートで演奏する機会に恵まれました。表現、レパートリーの幅を広げべく、ソロのみならず室内楽にも取り組んでいます。たくさんのご縁や応援してくださる皆様への感謝の気持ちを忘れずに精進してまいります。



Mai favorite
Mai Suzuki
by King Records



上/デビューCD “Mai favorite”
by King Records
下/イタリア・クレモナ、ストラディヴァリウス博物館内
ホールでのコンサート



オペラ「ヴィア・アウス・グラス」初演

いなもり やすたき
稲森 安太己 [作曲] 2009～2011年度奨学生
ケルン音楽舞踊大学



©Rainer Rauen

ドイツ、ミュンヘン市の主催する音楽祭ミュンヘン・ピエンナーレの委嘱で作曲した私の初めてのオペラ「ヴィア・アウス・グラス」が、2018年6月2日同音楽祭にて初演されました。ベルリン・ドイツ・オペラとの協働となった本作品は、初演の後さらに4回ミュンヘンで上演、その後6月19日から5回ベルリンで上演されました。この作品は多くの新聞や雑誌でも高い評価を受けました。



©Eike Walkenhorst



©Eike Walkenhorst

「ヴィア・アウス・グラス」上演の様子



初ソロリサイタルツアー開催！

あんどう きょうへい
安東 京平 [ユーフォニウム] 2009～2011年度奨学生
アラバマ音楽大学



2017年、初めての全国5カ所(大阪、名古屋、札幌、仙台、東京)を回るリサイタルツアーを開催しました。大学卒業後から続いているソロ演奏活動も軌道に乗り、おかげさまで全国で演奏を聴きに来てくださる方も増えました。また現在は国立音楽大学、桜美林大学、札幌大谷大学にてユーフォニウム非常勤講師として後進の指導や、シュピール室内合奏団やThe Boreas Quartetなど、室内楽演奏にも力を入れています。ローム奨学金のお陰で学んだこと、人との繋がりを大切に活動を続けています。



上/2018年2月アメリカテキサス州、TMEAでのThe Boreas Quartet演奏
下/2017年リサイタルツアーチラシ



ライプツィヒ・バッハ国際音楽コンクールの報告

くどう なおみ
工藤 奈帆美 [ピアノ] 2010～2012年度奨学生
ジュリアード音楽院



©Giuseppe Cardillo

2017年7月に開催されましたドイツのライプツィヒ・バッハ国際音楽コンクールにて第1位を受賞しました。ソロはバッハの他にもスカルラッティとモーツァルトを選曲し、決勝のコンチェルトでは初めて指揮者を置かない室内オーケストラと共演したので、大変刺激的な経験となりました。バッハをこよなく愛するライプツィヒにて賞をいただけたことは大変光栄で、これを機会に今後も更に精進していきたいと思っております。



©Gert Mothes



©Gert Mothes

上/バッハ国際音楽コンクールの決勝
下/バッハ国際音楽コンクールの表彰式



ローム ミュージック ファンデーション ブログ

奨学生レポートより



こばやし いっせい
小林 忼成 [ヴァイオリン]
2016、2017年度奨学生
ベルリン芸術大学大学院



ローム ミュージック ファンデーション奨学生の小林忼成です。
おかげさまで、ベルリン芸術大学での学びも2ゼメスター目に入りました。2018年年明け以降はレッスンや授業、コンサートなどの他にも、ドイツ語の資格試験合格を目指してとても忙しい毎日でした。春の休暇中は、日本で「東京・春・音楽祭」など6つのコンサートに出演した他、先生から「たくさんのことをやりすぎず、少しゆったりするように」とのアドバイスを受け、さまざまなヨーロッパの文化歴史、自然を体感しようと、ベルリンから小さな旅に出ました。



バルセロナ サグラダファミリア

初めてのスペイン・マヨルカ(シヨパンが病気療養に滞在したという島)やバルセロナは、ヨーロッパとイスラム文化が混ざったような感じ、フラメンコのリズム感を見に行きました。奇才ガウディの建築や庭園も見学し、類い稀な曲線美へのこだわり、構造の自由な発想に驚き感動しました。サグラダファミリア教会ではガウディと、彼の死後、さまざまな芸術家が建設に携わり、異なるマテリアルで1つの教会をつくっている途中経過を見て、1人1人の芸術家がこのまで違い、違っていていいのだと感じました。



スイス ルツェルン湖

スイスは、せせらぎや草地の風景が広がり、そびえ立つアルプスや大自然に悠久のときを感じて心が洗われるようです。いくつもの大きな湖のほとりの小さな街がルツェルンでした。

どこもベルリンから飛行機で1~2時間前後なのに、ここまで文化が違うのかと驚き、歴史に圧倒され、今ここに生きている自分を自然と考えさせられます。



オーケストラ リハーサルにて

さて、学校が始まるのは4月の半ばです。2018年5月はベルリンフィルの本拠地「フィルハーモニー」にて、満員のお客様のなか、大学のオーケストラでマーラーの交響曲第9番を演奏。初のフィルハーモニーでの演奏はとても楽しく、友人知人が増えたことも有意義でした。

またドイツ語検定試験B2資格を取得しました。ベルリン芸術大学は入学後2ゼメスター以内にB2を取得できないと強制退学なので、内心ひやひやでした。



本番はベルリン「フィルハーモニー」コンサートホールにて

入学したときには、右も左もわからない状況でしたが、今は環境に溶け込み、日々が回り出してきました。日本を飛び出して大きな世界を見て勉強することで、自分の世界も一気に広がり、新しい段階にいると感じます。まだ留学は始まったばかり。ドイツに滞在している間にできることは全てやり、たまにはのんびりしながら、自分を高めていくつもりです。

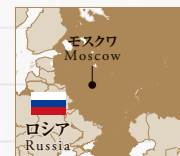


ローム ミュージック ファンデーション ブログでは、
現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>



ひだか しの
日高 志野 [ピアノ]
2016、2017年度奨学生
チャイコフスキー国立モスクワ音楽院大学院



ローム ミュージック ファンデーション奨学生の日高志野です。
留学最後の今年、ロシアで忘れたい演奏の機会があり、ぜひここでご紹介したいと思います。

演奏した曲目はチャイコフスキーのピアノトリオ「偉大な芸術家の思い出に」、モスクワ音楽院創設者ニコライ・ルビンシュテインの死に際して捧げられた名曲です。学生時代、私はソロの活動をこなすのに必死で室内楽と距離を置いていましたが、そのころからチャイコフスキーのピアノトリオは本当に大好きで、まだ心通う仲間もないのに日夜CDを聴き、いつか演奏できる日を夢見ていました。そんな数年越しの願いであるロシアでの共演を快諾してくれたのが、同じくロームミュージックファンデーション奨学生の堀江牧生さん。モスクワ音楽院を卒業後、ロシア各地で演奏活動を積極的に行う素晴らしいチェリストです。声をかけたヴァイオリニストは、名教授エドゥアルド・グラッチ氏のもとで研鑽を積むアリーナ・クロエドヴァさん。ロシア人らしくからめ控えめな性格ながら、気遣いも細やかで、音が美しく華やかなヴァイオリニストです。意外なことにトントン拍子で話はずみ、なんと1週間で3回もの演奏機会に恵まれました。直前にあれよあれよと本番が入るのもロシア流なのです。本番に向けたトリオの練習は、回を重ねるごとにおそらく音楽の核心にせまるもので、毎回がとても刺激的な時間でした。今回共演してくれた2人に心から感謝しています。



モスクワ音楽院



ヴァイオリンのアリーナ・クロエドヴァさん、
チェロの堀江牧生さん、日高の3人で

モスクワ音楽院最後の1年となった今年はアンサンブルの機会に多く恵まれました。ヴァイオリン、チェロ、歌など..なかにはソロのコンサートと並行して準備する厳しいものもありましたが、遠ざかっていた室内楽に最後向き合いなさい、と天から言われているようで、それらすべてがかけがえのない経験となりました。

室内楽の醍醐味は、いろいろな演奏家と共演して化学反応を起こしそれを楽しむこと!皆様、ぜひ私と共演してください!(笑)

ロームシアター京都 ミュージックサロン

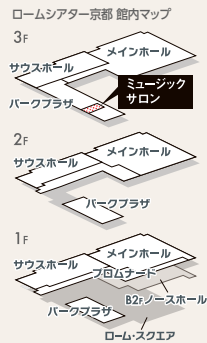
ロームシアター京都の開館と同日である2016年1月10日にオープンしたミュージックサロン。音楽とさまざまな形で触れ合うことができる施設として各種イベントを開催し、これまでに多くのお客様にご来場いただいています。

■「ミュージックサロン」施設概要

場 所：ロームシアター京都 パークプラザ3階
面 積：約96㎡
定 休 日：臨時休館日を除き年中無休
営 業 時 間：10:00～19:00
利 用 料 等：無料、原則出入り自由（一部整理券が必要な場合あり）
主 要 設 備：7.1chサラウンドシステム、120インチスクリーンプロジェクター、演奏スペースなど
主 な 開 催 内 容：オペラやオーケストラなどの映像・音源の放映、イベント（コンサート、セミナー、資料展示等）の開催



©上田祐勢



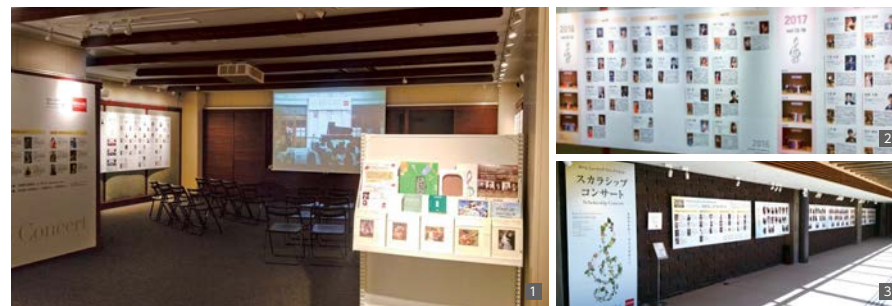
ミュージックサロン スケジュール

期 間		内 容
2018.3/21	イベント	トーク&コンサート 魂の楽器ホルン～世界一難しいと言われる金管楽器～
4/2～4/15	上映会	ヴァイオラってどんな楽器？ オン ザ・スクリーン
4/16～4/30	上映会	クラリネットをあなたに オン ザ・スクリーン
5/1～5/31	上映会	京都・国際音楽学生フェスティバル オン ザ・スクリーン
5/20	イベント	トーク&コンサート オーボエで歌い、舞う！～ここに沁み入る音色～
6/1～6/15	上映会	作曲家について知ろう オン ザ・スクリーン
6/16～6/30	上映会	舞曲でめぐるヴァイオリンの魅力 オン ザ・スクリーン
7/1～7/15	上映会	トランペットの魅力、再発見！ オン ザ・スクリーン
7/16～7/31	上映会	歌うコントラバス オン ザ・スクリーン
8/1～9/15	上映会	スカラシップ コンサート オン ザ・スクリーン
8/4	イベント	トーク&コンサート ハープの優雅な調べ～知られざるハーピストの苦悩～
9/17	イベント	トーク&コンサート 木管のお父さん ファゴット～魅力ある低音のダンディズム～
9/19～11/29	展示会	オペラの扉2018～KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION～

2018.8/1～9/15

ローム クラシック スペシャル ローム ミュージック ファンデーション スカラシップ コンサート オン ザ・スクリーン

2013年から毎年開催している、ローム ミュージック ファンデーションの奨学援助を受けて世界中の音楽学校で学んだ学生が出演する「スカラシップ コンサート」の過去の映像を、全出演者の当時の写真とプロフィールを紹介するパネル展示とともに放映しました。合わせて、1階プロムナードでも関連の展示を行いました。



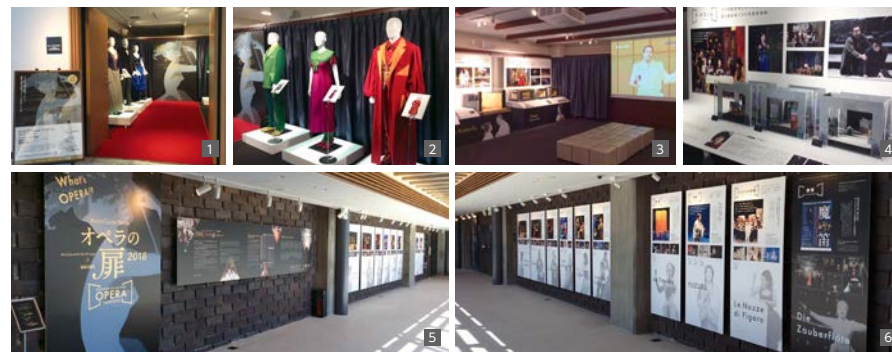
1 2 3階ミュージックサロンでの展示 3 1階プロムナードでの展示

2018.9/19～11/29

ROHM CLASSIC SPECIAL ローム ミュージック ファンデーション×新国立劇場 オペラの扉2018 ～KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION～

新国立劇場が「ひとりでも多くの高校生にオペラを知っていただきたい」との思いで1998年から実施している「高校生のためのオペラ鑑賞教室」。その関西公演が行われる時期に合わせて、昨年に続き、今年も「オペラの扉2018～KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION～」を開催しました。

実際にオペラで使用された舞台衣装や、制作過程で作られる舞台模型、演出家のインタビュー記事などを展示し、さらに、1階プロムナードでは20年以上にわたる同鑑賞教室の上演史を舞台写真とともに振り返る展示も開催しました。



1 2 3 4 3階ミュージックサロンでの展示 5 6 1階プロムナードでの展示

2018.3/21
トーク&コンサート
魂の楽器ホルン

～世界一難しいと言われる金管楽器～

金管楽器の中で世界一難しいと言われ、ギネスブックにも認められている楽器「ホルン」。
室内楽、オーケストラなど多岐に渡り活躍する、ホルン奏者の福川伸陽さんとピアニスト岡田奏さんに、ホルンの魅力を演奏とお話を交えてご紹介いただきました。



2018.5/20
トーク&コンサート
オーボエで歌い、舞う! ～ここに沁み入る音色～

響きが人の声に近いと言われ、温かく郷愁を誘う音色を持つ楽器「オーボエ」。
その魅力を、オーケストラや室内楽、ソロなど多彩な活動を行うオーボエ奏者の荒絵理子さんとピアニスト山洞智さんに、演奏とお話を交えてご紹介いただきました。



2018.8/4
トーク&コンサート
ハープの優雅な調べ
～知られざるハーピストの苦悩～

常に優雅なイメージがつきまとう「ハープ」。
そのイメージに潜む秘密や、知られざるハーピストの苦しみや意外な悩みを、多彩な活動を行うハープ奏者の景山梨乃さんに、演奏とお話を交えてご紹介いただきました。



2018.9/17
トーク&コンサート
木管のお父さん ファゴット
～魅力ある低音のダンディズム～

木管楽器のなかでも渋みのある、艶やかな音色が特徴の楽器「ファゴット」。
その魅力を、オーケストラ、室内楽、ソロなど多彩な活動を行うファゴット奏者・中野陽一朗さんとピアニスト松田みゆきさんに、演奏とお話を交えてご紹介いただきました。



最新のイベント情報などは、ローム ミュージック ファンデーションのウェブサイトよりご覧いただけます。

奨学生一覧

(各分野五十音順)

ヴァイオリン/103人

青木 尚佳
青谷 友香里
アシュリー マリア アヤ
東 珠子
菅井 京子
荒井 優利奈
安彦 千恵
伊賀 あや
石橋 幸子
泉原 隆志
礪 絵里子
糸井 真紀
伊藤 文乃
井上 奈央子
上野 明子
植村 太郎
植村 菜穂
植村 理葉
牛草 春
エリック・シューマン
尾池 亜美
王 中男
大江 馨
大岡 仁
西川 莉紗
大谷 玲子
岡崎 慶輔
岡本 誠司
小川 恭子
小野 明子
榎本 大進
加野 景子
神尾 真由子
神谷 未穂
川村 奈葉
木嶋 真優
岸本 萌乃加
北川 千紗
城戸 かれん
木村 悦子
清永 あや
日下 紗矢子
倉富 亮太
黒川 侑
郷古 廉
小林 宥成
小林 美緒
小林 美樹
佐橋 まどか
佐藤 久成
篠原 悠那
志満 直美

島田 真千子

島原 早恵
清水 有紀
白井 麻友
菅井 京子
鈴木 愛理
鈴木 舞
周防 亮介
高木 凜々子
滝 千春
瀧村 依里
田島 悠子
立上 舞
田中 晶子
田中 晶子
谷本 華子
玉井 菜穂
千葉 水晶
辻 彩奈
坪井 夏美
長尾 春花
中島 麻
中村 大地
成田 達輝
西川 茉莉奈
西澤 和江
二瓶 真悠
林 悠介
原 麻里亜
原田 亮子
福田 廉之介
藤江 扶紀
外村 理紗
前田 志乃
正戸 里佳
松川 暉
松田 理奈
三上 亮
村田 美英
毛利 文香
守屋 剛志
森山 まひる
安田 理沙
矢野 玲子
山根 一仁
梁 美沙
弓 新
湯本 亜美
吉江 美桜
吉田 南
米元 響子
渡邊 ゆづき

ヴィオラ/12人

赤坂 智子
大野 若菜
金丸 葉子
坂口 翼
杉田 恵理
瀧本 麻衣子
田原 綾子
中島 悦子
原 麻理子
牧野 葵美
山崎 智子
渡邊 千春

チェロ/37人

伊東 裕
伊藤 悠貴
上野 通明
上村 文乃
植村 葉夏
江口 心一
遠藤 真理
岡本 侑也
奥田 なな子
加藤 文枝
門脇 大樹
唐沢 安岐奈
熊澤 雅樹
佐々木 蘭望
笹 樹
佐藤 晴真
高木 慶太
辻本 玲
中木 健二
長谷川 彰子
林 裕
樫本 瑠音
平野 朝水
藤井 泉
藤原 秀章
堀江 牧生
松山 翔子
マーク・シューマン
水野 優也
三井 静
峰本 更
宮田 大
森田 啓佑
山上 ジョアン 薫
山本 徹
横坂 源
渡邊 方子

クラシックギター/4人

谷辺 昌央
藤元 高輝
松本 大樹
山田 唯雄

ヴィオラ・ダ・ガバ/1人

酒井 淳

フルート/20人

阿部 礼奈
井坂 実樹
岩瀬 桐子
上野 星矢
大久保 彩子
久保 順
倉田 優
小山 裕幾
庄田 奏美
瀧本 実里
竹山 愛
中村 薫
萩原 貴子
藤井 香織
本宮 湖心
増本 竜士
森岡 有裕子
八木 瑛子
若林 かをり
渡邊 玲奈

オーボエ/4人

荒 絵理子
岡山 理絵
田代 奏子
本多 啓佑

クラリネット/10人

梅原 希枝
金子 平
小林 知世
小山 洋子
白子 正樹
辻本 聡子
中川 知美
原田 綾子
福田 さあや
吉田 誠

サクソフォン/2人

中島 諒

ファゴット/3人

小山 莉絵
中野 陽一朗
藤村 踊子

トランペット/2人

菊本 和昭
佐藤 友紀

トロンボーン/2人

清水 真弓
山本 浩一郎

ユーフォニウム/2人

安東 京平
佐藤 采香

打楽器/5人

池上 英樹
岩見 玲奈
沓野 勢津子
通崎 睦美
福山 直子

ハープ/5人

景山 梨乃
シュレイファー 弓子
高野 麗音
林 千佳世
福井 麻衣

パイプオルガン/1人

椎名 雄一郎

チェンバロ/2人

北御門 はる
脇田 英里子

ピアノ/128人

浅野 未麗
有吉 亮治
五十嵐 薫子
石井 楓子
石川 武蔵
石田 啓明
石村 純
乾 絵美
今井 彩子
今田 篤
入江 一雄
岩本 恵理
梅村 知世
江澤 茂敏
江尻 南美
住谷 美帆
岡田 奏
大井 浩明
大崎 結真
大西 真由子
岡本 麻子
奥田 暁仁

奥村 友美

小沢 麻由子
越知 晴子
小野田 有紗
海瀬 京子
梯 剛之
柏原 佳奈
加藤 大樹
加藤 洋之
加野 瑞夏
神野 千恵
河内 仁志
川崎 翔子
川島 基
川田 健太郎
河村 尚子
菊地 裕介
菊池 洋子
喜多 宏丞
清塚 信也
日下 知奈
工藤 奈帆美
久保 千尋
倉澤 杏菜
黒岩 航紀
黒田 哲平
高 実希子
壽 千明
小林 愛実
小林 有沙
小林 海都
齊藤 一也
坂本 真由美
崎谷 明弘
佐々木 宏子
佐竹 裕介
佐藤 卓史
佐藤 彦大
佐藤 麻理
佐野 まり子
紫垣 英二
志鷹 美紗
釈迦郡 洋介
白川 多紀
菅野 雅紀
鈴木 謙一郎
住友 郁治
関本 昌平
芹澤 佳司
反田 恭平
高田 匡隆
高橋 礼恵

内匠 慧

田中 香織
田中 正也
田村 響
津嶋 啓一
津田 裕也
鶴見 彩
土居 知子
中尾 純
中桐 望
中島 彩
長瀬 賢弘
中元 千鶴
奈良 希愛
新美 光映
沼澤 淑音
野上 真純子
萩原 麻未
橋本 尚
服部 慶子
花岡 克典
浜野 与志男
林田 麻紀
樋口 一朗
久末 航
日高 志野
平松 悠歩
福田 和子
真隅 政大
松尾 久美
松岡 淳
松本 和将
丸山 耕路
丸山 凪乃
萬谷 衣里
Elezovic MIA
三浦 友理枝
三戸 あけみ
三宅 麻美
宮下 彩子
宮田 理生
務川 慧悟
村田 理夏子
村松 珠美
森田 義史
矢島 愛子
山田 剛史
山本 亜希子
吉兼 加奈子
ティーン 吉川 右希子
吉田 友昭
吉武 優

米津 真浩

李 早恵
脇岡 洋平

オルガン/2人

福本 茉莉
宗 かおり

声楽/58人

石井 教子
市原 愛
乾 麻里子
上杉 清仁
江口 輝博
大島 京子
岡田 昌子
加藤 史幸
加藤 麻衣
川島 幸子
川原 成子
木下 周子
木下 美穂子
木村 善明
木村 里花子
蔵田 みどり
小玉 晃
小林 沙羅
近藤 圭
崔 宗宝
坂本 知亜紀
志摩 大喜
清水 俊徳
周 江平
杉原 かおり
鈴木 愛美
田邊 織恵
谷口 伸
谷村 由美子
田村 麻子
趙 非
津國 直樹
辻 裕久
寺田 功治
田 大成
富岡 明子
中川 恵美里
中嶋 俊晴
中島 康晴
鳴海 真希子
林 佑子
深瀬 康
藤木 大地

藤谷 佳奈枝

本田 智衣
又吉 秀樹
松原 友
真野 路津紀
溝淵 悠理
峯島 望美
宮里 直樹
森野 美咲
山下 新吾
山本 美央
吉澤 淳
吉田 貴子
藍 野流
李 恩敬

指揮/21人

栗辻 聡
石川 皇太郎
伊藤 翔
垣内 悠希
川本 貢司
岸本 有理
鬼原 良尚
齊藤 一郎
阪部 慎太郎
篠崎 靖男
下野 竜也
杉本 優
橋 直貴
寺岡 清高
阪 哲朗
三ツ橋 敬子
村上 寿昭
村中 大祐
森 香織
森口 真司
森田 宏樹

作曲/19人

阿部 俊祐
稲森 安太己
今井 智景
北爪 裕道
木下 正道
小出 稚子
酒井 健治
坂田 直樹
塚本 瑛子
中川 佐織
夏田 昌和

朴 炳五

松宮 圭太
松本 直祐樹
ママトウメル
山口 紘
李 大暉
渡邊 愛
渡辺 裕紀子

教会音楽/1人

小山田 薫

音楽学/16人

金 士友
真方 マキ子
真 耘
白石 悠里子
関本 菜穂子
園田 みどり
高野 裕子
東田 範子
戸祭 哲子
中村 伸子
西村 理
畑野 小百合
早坂 牧子
丸山 瑠子
村田 圭代
李 金叶

オペラ演出/4人

井原 広樹
郭 才銀
馬 金泉
森岡 純子



ローム ミュージック フレンズ No.7

—ロームミュージックファンデーションの音楽文化支援情報誌—

発行 2018年11月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

〒615-0044 京都市右京区西院西中水町1

TEL (075) 311-7710 FAX (075) 311-0089

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

協 賛： **ローム株式会社**

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。

2018.11.5K

UD
FONT

